

原研シグマ研究委員会 FPワーキンググループ会合議事録

日 時： 昭和53年6月2日(金) 13:30~15:30

場 所： 原研東海核データセンター

出席者： 中嶋（法政大），松本，五十嵐，中川，菊池，西村（秀）（原研），
青木（富士），眞木（日立），渡部（川重），松延（住友原子力），
川合，飯島（NAIG）

配布資料：

- (1) 前回会合議事録（4月17日の分）
- (2) Nd isotopes cross section 評価 Sub-working group 会合議事録
（5月12日分）
- (3) 同 上 （6月2日 午前会合分）
- (4) SPRT 法による OMP search program の入力フォーム（五十嵐）
- (5) 積分テスト計算プログラム式と入力フォーム，出力例（西村）
- (6) IAEA FPND newsletter（1978年）への contribution（飯島）
- (7) コード改訂のリクエスト案（飯島）

議 事：（司会 菊池氏）

1. 一般報告

シグマ運営委員会で，今年度からFP炉定数とFP核データワーキンググループを統一して，一つのFP核データワーキンググループとする事に決った事が報告され，本会合で事後承諾の形で諒承された。

前回会合議事録を確認した。

2. 積分テスト作業状況（中川，菊池，西村，渡部）

- (i) 非分離共鳴パラメタを使ってRESEND で計算しCASTHY 計算値と比べると，even-even 核については，RESEND の $\sigma(n, r)$ が小さい結果となった。理由は未だ判らない。（中川）

(追記) その後、計算を行なった結果は RESEND と CASTHY の間には殆ど差がないことが確かめられた。上記のずれはたまたま比較したエネルギー域が高く、d波以上の寄与を含めていないためであった。又、RESEND と ASREP も良く一致した。(中川：6月28日)

(ii) ENDF/B-4 を使う核種について、ENDFの記述に従って Moldauer 又は Wilmore-Hodgson potential を使って CASTHY で $\sigma(n, r)$ を計算した所、ENDFIB-4 と 30%位ずれるものがある。(菊池)

(iii) 配布資料(5)に従って積分テストの式、入力フォーム、出力例の説明があった。Petten の反応度データ解析のための入力作りは原研で行なうことになった。(西村、渡部)

(追記) 上記(i)の問題が解決されたので、非分離パラメタを、FP 28+37 核種分について西村氏に渡した。(中川、6月28日)

3. Nd isotopes cross section の評価 (飯島、菊池、川谷、青木、真木)

(i) 配布資料(2)、(3)に沿って作業状況の説明があった。現在、計算に用いる諸パラメタの表を作成中である。(飯島)

(ii) 計算のためのコード改訂案が配布資料(7)に沿って説明があった。五十嵐氏が検討することになった。

4. その他

(i) レベルスキームのレポートを JAERI-M report として原稿提出した。

(松本、中島) これは RCN との比較であり、100 FP 全部についてもレポートするよう要望があった。

(ii) IAEA FPND newsletter への contribution 原稿(配布資料(6))について、字句の改正をし、送付することになった。

以上